

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆続報 第9ステージに移行の可能性 第9ステージ短い可能性

No.1778長期継続特殊前兆の現況続報です。

No.1778は、本年08月のピークより第8ステージ認識で、約12のピークが出現し、前の極大を初現とした初現～極大の関係と、極大～終息の関係から、全てが11月20日±を示しました。

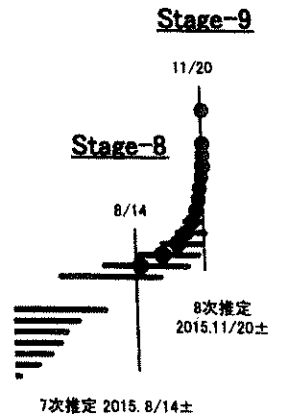
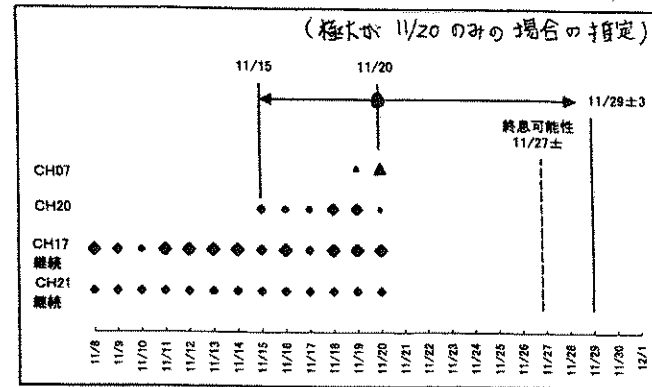
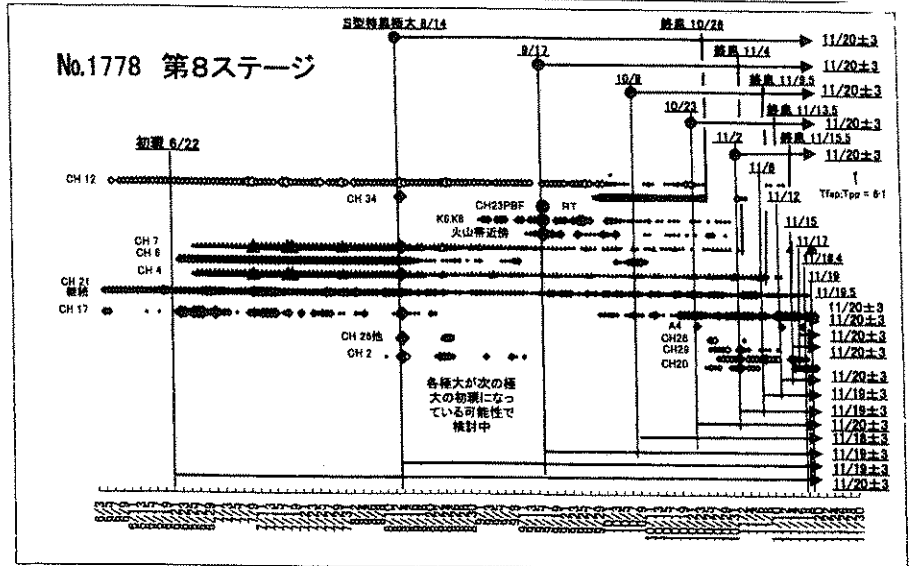
計算上、11月20日まで前兆が継続することとなり、この11月20日に発生となるのか、次ステージに移行するのか、事前の断定は困難であることは既に前号にも記させて戴きました。

本日11月20日、前兆の状況は、継続していたCH17と21の特異は継続中です。CH20は昼過ぎから静穏化。CH07に直接波近似変動が顕著で、短時間糸状基線も出現しました。

計算上、発生まで、前兆が継続するとは言え、これだけの前兆が出現していることは不自然で、CH07の前兆顕著出現も、本日発生の場合は説明困難です。本日午前地震発生なく、前述のとおり前兆出現状況から、本日は本日が発生日でないと言う見解を持ちました。

本日久しぶりにCH07に顕著な直接波近似変動出現に加え、短時間の糸状態特異出現から、これはピーク認識となります。このことから、第8ステージが示した11月20日本日、極大出現認識となり、第9ステージへの移行の可能性が示唆されます。

11月20日本日極大認識で、これに対する初現を検討しますと、11月20日を示す変動に直接関係が無い変動として、CH20の特異があります。CH20は、11月15日から糸状態特異となって出現していました。本日午後より静穏化。そこで、11月15日初現～11月20日極大と云う関係で、 $T_{\text{map}}:T_{\text{map}}=20:13$ 経験則を使用しますと、11月29日±が計算されます。右上の第8ステージの出現状況(短期間に12極大が出現)の流れからも、第9ステージは



No.1778 第9ステージ認識 前兆出現状況

短い可能性が示唆されます。今後の観測で、更にピークが出現観測された場合は再考の必要がありますが、仮にこの見解が正しければ、 $T_{\text{map}}=9$ 日±となり、今後は前兆が増えずに減少していく可能性も示唆されます。明日21日午前10時迄に発生なければ(無い可能性高い)前述の可能性が、今後より多数の極大出現の場合は、より先となります。今後このまま前兆が減少していくか、今後を観測し、状況を続報させて戴きます。

- ◆推定領域: 右図 太線領域内=大枠推定領域
斜線領域=可能性が考え易い推定領域
- ◆推定規模: $M7.8 \pm 0.5$
- ◆推定時期: (今後の前兆終息を観測し推定予定)
※現時点で考えられる可能性=11月29日±2
- ◇推定地震種: 震源が浅い日本列島の地殻地震
- ◇推定発生時刻: 午前9時±1 (又は午後6時±3)

